

トビタテ！留学JAPAN 日本代表プログラム 留学状況報告書



※留学状況報告書はExcelデータで提出してください。（ファイル名：留学状況報告書_第●期_学生個人番号_学生氏名.xlsx）

●基本情報

学生個人番号	S152N176010001
氏名(漢字)	中村友歌子
氏名(ひらがな)	なかむらゆかこ
所属大学等名	宮崎大学
所属学部/研究科/学科	農学部
所属学科/専攻/コース	森林緑地環境科学科
課程(▼で選択)	学部
留学修了時の学年(○年)	4年
期 (○期)	3期
コース (▼で選択)	理系、複合・融合系人材コース
留学開始日(yyyy/mm/dd)	2015/09/01
留学終了日(yyyy/mm/dd)	2016/02/29

●留学の活動概要と成果

活動概要と成果 ※主要な留学先を2か所記入してください。 2か所を超える場合は、ページ下部にある「活動概要と成果（予備）」に記載してください	1	国名	ニュージーランド
		都市名	クライストチャーチ
		受入機関名	カンタベリー大学
		期間 (yyyy/mm/dd)	2015/09/01-2016/02/29
		活動概要と成果	活動概要：心材形成をコントロールし国産材の価値を高めるためにその形成メカニズムの解明を目指す。また日本の国立公園の有効活用を目指し、自然観光立国NZにおいて国立公園の視察や環境保護ボランティアを行い、DOC(環境省)と関わりながら、ボランティア体制の実態、NZの自然の歴史、その魅力、持続的な生態系・環境保護体制について学ぶ。 成果：本大学林学科において、クレメンズ先生率いる心材化研究チームに参加し、他の研究生の関連研究にも多く携わった。これら研究への討論・フィールドワークを通して、研究の知見を広げること・コミュニケーション能力の向上に努め、指摘・助言を受けながら、目的のデータを得ることができた。帰国後は、これらのデータをもとに日本のスギと比較実験を行い、データの解析結果を卒業論文としてまとめ、木材学会に発表することで、心材化メカニズムの解明に寄与したい。また本学科の講義を聴講し、世界を視野にしたNZの林業を学んだ。これら学内活動だけに限らず、半年間継続してQuail島で自然保護ボランティアに参加することで、NZ独自の生態系、歴史を学べたほか、NZの人々がもつ自然への考え方、ボランティアの手法を実践的に身につけることができた。NZでは国、年齢やハンディギャップを問わず様々な人が、自分にできることを自分なりに探し自由に活動に参加していた。今後、日本で行政の立場から制度設計を学び、林業の普及活動・国土保全に取り組むと同時に、自然を通して、様々な社会問題（環境問題、少子化、無縁社会など）に取り組む団体活動の発展、普及にも携わり、多くの人に貢献できる人材になるよう努めたい。
	2	国名	
		都市名	
		受入機関名	
		期間 (yyyy/mm/dd)	
		活動概要と成果	

<p>日本発信プロジェクト <small>活動概要と成果</small> ※事前課題P22と研修で検討した内容をもとに記載してください</p>	<p>活動タイトル (30文字以内)</p> <p>実行したこと</p> <p>成果・ 気づいたこと</p>	<p>現地学生と学ぶ日本文化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本語スピーチコンテスト表彰式への参加 ・日本語講義への参加 ・日本発信動画作成 ・お花見 ・Language Swapの実施 ・日本食パーティー ・日本のおもちゃ体験 <p>講義では日本語を教える機会を与えてもらい、日本の文化を話し合った。またその講義の環境で日本語学科の生徒と日本発信動画を作ったり、個人的に放課後集まり、勉強会を開き一緒にテスト勉強したりと、互いの学生生活を知ることができた。そのほか私は大学外でのフィールドワークも多かったため、外泊の際は、夕食担当時に日本のカレーやおにぎり、味噌汁、たこ焼き、ラムネ、抹茶などを振舞った。同時に他国の料理も食し、互いの食文化について話し合うこともできた。フラットハウスでお世話になった家族の子供には、竹とんぼや紙風船、カタガミなどをプレゼントした。これらを通し、日本の文化についてうまく説明できない部分も多く、特に、政治、他国と日本の歴史的な外交関係など、さらに勉強する必要性を感じた。一方で、他国の話しを聞くことで逆に日本の魅力に気づくことができたり、文化の違いに他国のことをもっと知りたい、行ってみたいという意力にも繋がった。</p>
<p>留学中および帰国後の活動を通じて最も成長した経験とそこから学んだこと ※事後研修事前課題・事後研修の内容を踏まえて記入してください ※具体的な経験エピソードをもとに記入してください</p>		<p>はじめの留学生活のなかで、多くの新しい出会いに恵まれた反面、本当に様々な文化の違いに直面し、日々楽しいことだけではなかった。特に印象的だったのが、留学初期に研究室の年上の女性から「あなた一人でのいるよね」といわれたことだった。研究室にはいつも私以外の研究生もいたし、言われたときは何を言われたのか理解できなかったが、当時まずは研究室の空気に馴染もうと受身になり、ほかの研究生に自分から話しかけていなかった自分の姿勢に気づききっかけになった。ここでは、人と積極的にコミュニケーションをとり自分から発言していかなければ、そこにいても自分がいないのと同じなんだと気づき、それまでの自分にショックを受けると同時に、内向的な自分の殻を破って、自分から人に話しかけるようになった。多国籍な人たちとの会話を通してさらに気づいたことは、「異文化を否定しない」とこの大切さだった。人柄、宗教、文化、習慣いろんな違いこそあれど、私を受け入れ、多くの場面で助けてくれた人たちのように、私も優しく、柔軟な人でありたいとつくよく思った。</p>
<p>あなたにとっての留学の価値 ※事後研修事前課題・事後研修の内容を踏まえて記入してください</p>		<p>このトビタテ留学JAPANに応募するまで、自分が社会にでて何がしたいのか、ここまで真剣に考える機会がなかった。そしてこのプログラムを通して出会った多分野で活躍する仲間は、私の視野を大きく広げてくれた。家族も知り合いもない土地で目標だけ掲げ、まさにゼロからのスタート、留学当初は自分がどこまでやれるのか、不安でいっぱいだった。これらすべての経験と苦悩は、人に頼ることと現状を打開するための度胸の重要性を教えてくれた。挑戦したからこそ、研究にトライし、様々なことを経験させてもらい、NZの美しい自然と温かい人たちに会うことができ、そこから多くの刺激を受けることができた。まだまだ勉強不足だが、学び続ける姿勢を忘れず、向上心を持ち続けたい。一人ではなにもできなかった私の留学を支えてくれたすべての人に感謝し、いつか自分も誰かのチャンスになれる人間になりたい。</p>

●留学機運醸成に向けた活動

エヴァンジェリスト活動企画 ※事前課題P〇と研修で検討した内容をもとに記載してください	カテゴリ	イベント（大学等）
	活動タイトル (30字以内)	宮崎に根ざした留学促進活動
	対象者・人数	宮崎県内の高校生、大学生
	実施場所	宮崎大学内、宮崎県内の高校
	実施時期	～夏
	内容	宮崎県内の高校生・大学生のトビタテ応募者増加をめざし、九州・山口のトビタテ生とFacebookネットワークなどを用い連携し、互いの留学経験を共有し、学生にこれら情報を提供し、自分に合った留学プラン・将来設計の参考にしてもらい、留学を身近に感じてもらうとともにトビタテ応募者増加の機運を高める。また情報を提供する場として高校訪問・大学での留学説明会の参加・発表をする。
	達成目標	留学に対し、いまだ高い壁を感じている人や留学に対する不安を抱いている人の相談に乗り、背中を押すことを目的とし、宮崎からの応募者ならびに合格者増加をめざす。また、長期的でより強固な活動として続いていくよう常にほかのエヴァンジェリスト活動(沖縄ビーチトビタテ会や九州トビタテ駅伝など)との連携を取り続ける。
実施に向けたアクションプラン	すでにトビタテ九州・山口組で各県ごとに高校生増大プロジェクトを発足、宮崎県内のトビタテ生同士で情報の共有を行っている。今後高校訪問校の決定や留学説明会などの参加について日程調整を行い、徐々に進めていく予定。また、他県のトビタテ生とも連絡をとっている。	